


令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 鹿児島県 】

学校名【 西之表市立榕城小学校 】

1 実践テーマ	①・II ③・IV ⑤(複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	4年 76人 5年 81人 6年 76人
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な学習の時間, 算数) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	1 オリンピックやパラリンピックの特徴や発展・意義, 歴史について調べ, オリンピックやパラリンピックへの興味・関心を高める。 2 パラリンピアンによる講演を通して, スポーツに対する興味・関心の向上を図るとともに, 諦めないことの大切さや努力を続けることの大切さを知り, 目標作りの意識を高める。
5 取組内容	5月～7月 5年「ホストタウンについて知ろう」 【総合的な学習の時間】 西之表市は, ポルトガルのヴィラ・ド・ビスポ市と姉妹都市であることや, 「ポルトガル共和国」のホストタウンとなっていることから, ポルトガルについての興味・関心, 応援しようという気持ちを高めるために, 学習した。 ① 種子島開発総合センター鉄砲館にあるポルトガル交流展示室の見学に行き, 職員の方から話を聞いたり, 展示されている資料を見たりして, ポルトガルへの関心を高めた。
	
<p>《鉄砲館にポルトガルについて調べに行ったときの様子》</p>	

- ② ポルトガルについて、観光名所や食べ物、自然などのテーマを選んで、自分が調べたい課題を設定し、調べたことをプレゼンにまとめた。



《学級で調べたり、プレゼンの練習をしたりしている様子》

- ③ 作成プレゼンを使って発表したり、ポルトガルの方とオンライン発表会で交流を深めたりした。



《オンライン発表会で交流をしている様子》

12月 4年「ボッチャにトライ」

【算数】

ボッチャのルールを理解して実際に体験した。そして、的球までの距離を測り、自分と友達との記録の関係を調べ、何倍にあたるかを求めた。



↑ 《手作りの道具》

道具は、ビニル袋に砂を入れて、ガムテープで巻いたものを手作りした。

1月 5・6年「パラリンピックについて知ろう」「パラリンピックスポーツについて学ぼう」

「I'm POSSIBLE」の教材を活用して、パラリンピックの歴史や意義について学習した。また、パラリンピックスポーツの記録や工夫、用具、サポートする人に注目しながら学習した。

学習の最後には、学んだことをクイズにして、振り返る時間を設定した。



《講演会に向けての事前授業》

1月 5・6年「パラリンピアンによる講演会」

車いすバスケットボールの日本代表である網本麻里選手の講演会をオンラインで行った。計画では、実際に来校して講演会と実技体験を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症対策のため、オンラインでの講演会に変更した。



《網本麻里選手による講演会》



《子供たちからの質問の様子》

6 主な成果

- 西之表市とホストタウンのポルトガルは、歴史的にも深いつながりがあり、子供たちも小さい頃から慣れ親しみのある国ではあったが、もっと調べてみたいという興味・関心を高めることができた。
- 実際にポルトガルの方とオンラインで交流することによって、貴重な体験ができた。
- 1月の授業の初めに、「TOKYO オリンピックを見た」という子供たちは82%いたが、「TOKYO パラリンピックを見た」という子供たちは37%であった。そこで、パラリンピックとは何か、パラスポーツにはどんなスポーツがあるかを「I'm POSSIBLE」の教材を活用して、クイズや映像を取り入れながら学習することで、子供たちの感想から「障害のあるなしにかかわらず、みんなが笑顔で、自分の限界に挑戦できていて、すごいなと思った。」「工夫によってみんなが楽しめたり、全力で競ったりして、もっと知りたいと思った。」などと、関心の高まりを感じた。

	<ul style="list-style-type: none"> ○ パラスリートの方の講演の後、質問がたくさんあって、子供たちの興味・関心が高まったことを感じた。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 展示室での職員による説明や、実際にポルトガルの方とオンラインでの交流など、外部の方々とのつながりによって、貴重な体験ができた。 ○ 4年生の算数の中で、「ボッチャにトライ」という倍の計算を学習する場面があり、子供たちの「ボッチャをやってみたい」という思いから、ボッチャの体験につなげ、倍の計算にもつなげた。 ○ ボッチャの道具を手作りすることで、人数が多くても対応できるように工夫した。 ○ 「I'm POSSIBLE」の教材は、45分の授業を想定した資料になっていて、どの教員が授業をしても取り組みやすい内容になっていた。 ○ パラスリートの方と直接お会いすることはできなかったが、オンラインで話を聞くことで、アスリートの方との交流ができた。
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新型コロナウイルス感染症対策のため、パラリンピアンによる対面形式での講演会を中止せざるを得なかった。 ○ 同様に、感染状況を踏まえて計画の変更を余儀なくされたため、「新しい生活様式」の下での実施を念頭に計画をする必要がある。 ○ 子供たちにとって、パラスポーツに触れる場が少ないので、実技体験であったり、アスリートとのふれ合いをしたりすることが貴重な体験となるが、本校が離島であり、アスリートを招聘することが難しい。(予算面も含む)
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「I'm POSSIBLE」の教材を活用した授業を実施し、パラリンピックへの知識・理解を深める。 ○ 講演会や競技体験などを通して、体験的にオリンピック・パラリンピックへの興味・関心を高める。